

神戸のディテール

Detail of KOBE

27

石阪 春生

写真／杉尾友士郎







明るいファッションライフをつくるスギヤ本店が30周年を迎えました。

婦人服飾とおしゃれ小物

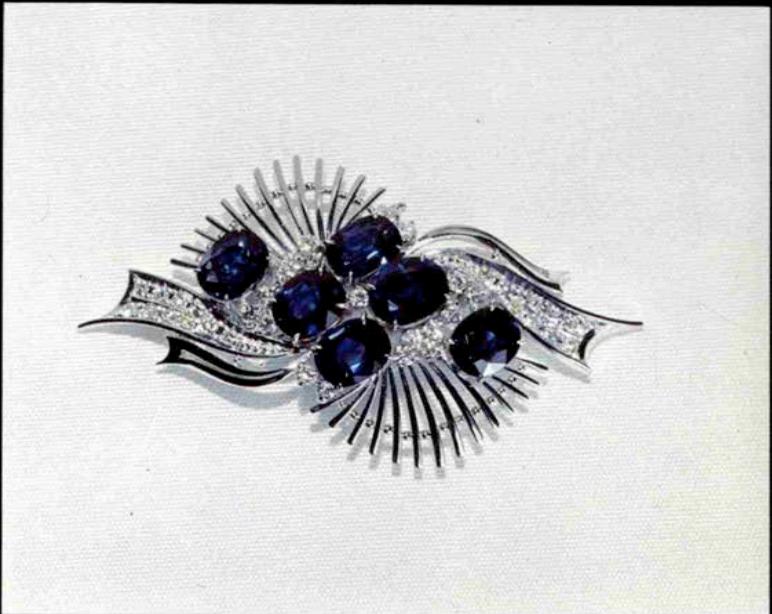
スギヤ

本店／トアロード／078(331)3436 六甲店／阪急六甲ファミリーストア内／078(871)2733 東京店／池袋パルコ地下1階／03(987)0567
梅田店／阪急三番街地下1階／06(372)4877 宝塚店／阪急宝塚南口駅構内／0797(71)5033 阪急神戸店／阪急百貨店1階／078(321)3521
心斎橋店／心斎橋パルコ3階／06(245)1316 芦屋川店／阪急芦屋川ファミリーストア内／0797(31)8193 宇都宮店／西武百貨店1階／0286(35)0111

有限会社 スギヤ事務センター／神戸市葺合区琴緒町5丁目3 ☎ (241)2291・2

★ こころの宝石を大切に……

TAKATA JEWEL



シリーズII 《この1品》
ホワイトゴールドブルーサファイア带止め



トア・ロード

タカタ宝石

〒650

神戸市生田区北長狭通2-161-1

電話 078・391・4105



MURATA
FASHION
COORDINATE
Revillon
FOURRURES

秋は優雅な雰囲気が似合います。

毛皮とレザー、長毛と短毛など異質素材の組み合せが昨年から流行っています。毛皮とレザーの併用は感覚的に変化を出せる点が、長毛と短毛の併用は衿に長毛をトリシングして使える点が好まれているようです。またコート丈はヤング、ミッシィ向けの中級毛皮はファッショの影響を受け変化していますが、ミセスを中心とした高級毛皮は従来と変わりありません。ヨーロッパをはじめ世界の人々に愛用されております。レビオンとの技術提携により、ムラタがシックなこの秋を演出いたします。

写真の品はホワイトミンクロングコート（銀狐衿つき）Revillon Paris ¥2,100,000

モデル／舟木加代

PHOTO／米田定蔵



真珠・貴金属
毛皮・婦人服

ムラタ

さんちかレディースタウン
兵庫神戸 (078) 391-3886

8月 目次

これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたの暮らしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人々にはやさしい道しるべ
これは神戸つ子の手帖です

表紙／小磯良平
セカンドカバー／COLLECTION <8>／中西 勝

神戸つ子75／三浦徳子／杉山武敏
ある集い／日本UFO研究会

コウベスマップ

神戸つ子ギャラリー／環境造型①

〈山口牧生／増田正和・小林睦一郎／

神戸のティートル（27）／石阪春生／カメラ・杉尾友士郎

わたしの意見／土井芳子／随想三題／富地孝／加藤林美／稻垣よしげ子

ある集いその足あと／日本UFO研究会

神戸つ子談話室／唐招提寺豫壁画展での東山魁夷

ある現代美術家の芸術的なレポート（9）／河口龍夫

連載隨想（2）／神戸の女は日本一／華房良輔

キヤンペーン／ファッション都市神戸を考える（1）／

座談会／山本敏雄／藤田敬一郎／田中国夫／妹尾美智子

経済ボケットジャーナル／地域と企業／石阪春生／稻岡必三

第14回日本SF大会／SHINCON特集

大会宣言／簡井康隆／プログラム＆出演者紹介

随想／屠村卓／アーバンデザイン・内閣官房

座談会／簡井康隆＋ネオ・ヌルメンバ－

アーバンシンボート／小山保

今月の催し物ご案内

神戸の話題から①「成華集」出版記念会／竹内実

動物園飼育日記／②山田無文・中内功出版記念会／鎌田糸平

技術ジャーナル等／中水道／諸岡博熙

神戸のアーバンデザイン・モダンリビング（2）／水谷頼介

神戸を福祉の町へ（20）／里親をさがして14年／橋本明

プロフェッサーIPの研究室／岡田淳／アーバンライフ／イン

アーバンシンボート／ロンドン（5）／柴田啓輔

心に残るOILD KOBE（11）／元プラ礼賛／あおばしげる

ニユーヨークからの便り／（24）／日本人の車はクツ／竹田洋太郎

淀長見見席／（43）／SF映画と人間サマ／淀川長治

女体百景／（37）／女ドラキュラ／H・ジュニア／え・浅野俊一

びつといん／神戸百店会だより

ボケットジャーナル

心に残るOILD KOBE（11）／元プラ礼賛／あおばしげる

まだ遅くない／（23）／葉月一郎／え・小西保文

連載小説／愛読者サロン／ボエムドコウベ／山口三智／カメラ・藤原保之

海船港／クーパーみたいなキャブテン／マルコボーロ号

●東アフリカ・サファリへの旅 ●豪華客船の旅ロッテルダム号ツアー



・申込み先 ドッドウェル トラベル サービス

大阪営業所 大阪市西区鞆一丁目102辰巳ビル1階 TEL: 06 (443) 8722

東京営業所 東京都千代田区大手町2丁目6番2号日本ビルIII TEL: 03 (241) 8020~4

野生アフリカとの出会い

行 先:ケニヤ・タンザニア

期 間:昭和50年12月26日~

昭和51年1月11日(17日間)

総 費 用: ¥650,000.-

募 集 人 員: 12名(サファリ・バス2台に分乗)

エスコート: 2名

福岡康年(アフリカ・スペシャリスト)

TEL: 078(691)5386

島村 均(ドッドウェル)

申込締切日: 昭和50年10月31日(金曜日)

(但し定員12名に達し次第、締切らせて頂きます)

申込方法: 上記月日までに申込金5万円を添えて上記にお申込みください。

ロッテルダム号香港・バンコックツアー

行 先: 大阪一バンコック一香港一神戸

期 間: 昭和51年3月8日(月)~

3月20日(土)(13日間)

総 費 用: 約¥650,000.-

(部屋により少し変ります)

募 集 人 員: 16名

ロッテルダム: ファーストクラス バス付
(2人1室)

飛 行 機: ツーリストクラス

ホ テ ル: デラックスホテル

(2人1室:希望により1人部屋可)

食 事: 旅程内の全食事

申 込 金: ¥100,000.-

申込締切日: 昭和50年12月26日(金)

国際婦人年にあたりまして、私達の協議会が二十五周年を迎えたことは、何か大きな示唆があるような気さえ致します。

★わたしの意見

婦人の善意と エネルギーを 社会へ

土井 芳子

△神戸市婦人団体協議会会長



私ごとになりますが、夫が戦死しまして、五人の子供を抱え両親を抱えて生活致します中で法律が男女平等でないことを知りました。苦しくても悲しくても自分ひとりで考え、行動しなければならないのです。そんな時に自分自身が、ほんとうに何も知らないと痛感しました。折もよく、神戸市社会教育課からの呼びかけがありまして、友達と一緒に何かを学びたい、つかみたいという気持ちから地域婦人会を結成して毎月必ず出席致しました。それは昭和二十一年七月のことだったのです。

国際婦人年にあたり全世界の各地でいろんな会が開かれております。婦人の地位は平均して低く、平等ではないのです。各地に戦争があり、老人、婦人、子供はいつも悲しい思いをさせられております。世界の平和を願つて、共に文化的で幸せな暮らしができるよう、発展への努力が必要なのです。

昭和五十年度、私達は次の申し合せを致しました。

一、平和な社会を育てるために、家庭に地域社会に「和」の心をひろげましょ。

二、より豊かに、より楽しくすごすために、毎日のくらしを見直してみましょ。

三、仲間づくりの輪をひろげましょ。

そうして事業計画と致しましては、

一、善意の会とボランティア活動の組織育成。

二、「婦人の地位は本当に向上しただろうか」を考える運動の推進。

三、自主的な健康管理の推進。

四、年代別の学習と活動の展開。

五、組織の整備と指導者の育成。

最後に二十五周年にあたり、私達は「婦人の善意とエネルギーを社会に還元しよう」ということで努力することになつております。

ビロードの味



アイスクリーム

“ビロードの味”とたたえられる
きめこまやかな フランス風、
手づくりのアイスクリーム。
さんちか茶寮や本店喫茶室では
特製のサンドアイスクリームを、
ご進物・ご家庭には容器入りを…



神戸風月堂

刀劍 古美術
書画 骨董

十六間小星筋甲

¥450,000



鑑定 買入
研 白鞘 拙 御承処

神戸市生田区元町通6丁目25番地

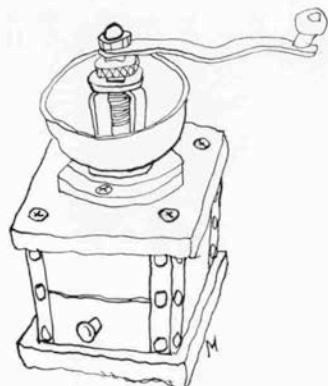
刀古骨 美 剣術董

円650

元町美術

TEL078-351-0081

隨想三題



カット／宮地孝（二紀会）

の色のあざやかな印象は今もなお
あえかな思い出として私の身内に
秘みついている。

その時分のトーアロードの店舗
のなかには、二三段のダンダンを
あがつて店にはいるようを作られ
たものもあった。店の中はうす暗
く、床板が敷いてあって、歩くと
ギシギシ音をたてた。私は古い神
戸が大すきだ。

私は歩道橋が 大きらい

宮地

孝

（浮世絵家）



昭和十五年の八月、東京から郷

里の高知に帰る途中、はからずも
私は、そのまま神戸に住みついて
しまった。そして私には、もはや
神戸は、離れられないまでに愛す
る神戸となってしまった。

それから三十年、私は一度も遠
くへ出かけたことがない。たまに
京都や大阪へは出かけることがあ
るが、その帰り、くるまが芦屋を
過ぎて、東灘にはいると、ああも

親の胸に抱かれた幼ない息子のよ
うに、しつとりした安らぎと、よ
ろこびを感じる。少々キザっぽい
が、これは私の実感である。こと
ほど左様に、私には最愛の地神戸
なのである。

思い出してみると、私が神戸に
きた昭和十五年という年は、大平
洋の風雲が、ようやく荒くなろう
とする頃で、東京ではもう何とは
なくきびしい気配が感ぜられてい
た。

雨に濡れたトーアロードの歩道
のヒビわれから、小さい葉を覗か
せていた雑草の可憐な風情が、た
まらなく美しく、大切なものを見
つけたよろこびとともに、その緑
わっている。

東亜戦争に突入した。
十八年には元町筋の鈴蘭灯もと
りつぶされ、兵隊がどやどやと歩
きまわる街になつた。学童疎開が
はじまり、私の家の隣組のほとん
どの家族は、それぞれの田舎へ帰
つて行つた。

戦争が終わると神戸は国際的近
代港都として急速に復興した。
家々の屋根の上を、高速道路が
つっぱしり、四角なビルの窓ぎわ
を路が横暴に疾走する。

今や神戸は自動車の氾濫で、ま
さに交通地獄の様相を示してい
る。それが故に、歩道橋が、いと
も無遠慮に街の空間を引つかさま

私は古の神戸が大すきだ。そして今のが神戸も大変すぎだ——。だが私は歩道橋が大きらいだ。

東京—神戸 ホットライン

加藤林美

（abcサウンズ・レポーター）

ラジオ関東『土曜深夜』

R.F.

レサ A.M.1時とA.M.5時は音楽と旅とファンション、そして食物の4本柱を中心に展開する、深夜放送には異色の情報生ワイド・ショードです。

この番組は、今年の七月で放送開始以来3年目を迎えるが、内容の低俗化が叫ばれている今日の『深夜放送』にはめずらしく、毎週毎回放送の回を重ねるごとに、わずかながらではありますかが聴取者の数を増しています。最近の深夜帯の番組にはまず異例なことであります。というのは、つい先日の5月31日の深夜放送分がちょうど聴取率調査に当たり、その結果は、われわれスタッフが予想していた数字をはるかに越えたものが、速報として出されました。特に年齢層は他の番組をぐんと引き離した22歳と25歳位までの、しかも女性層が圧倒的割合をしめています。さすがのわれわれスタッフ一同はビックリするやら鼻血を出すやら大変な騒ぎです。しかしながら、



神戸っ娘の4人のキャスター達

われわれの聴取者年齢層を上げる努力は、3年目にしてやっと報いられたような気がします。ところ

で、この『R.F.テレサ』がなぜそ

んなにも女性層に人気があるので

しょうか。

前に述べた4本柱の中で特に旅とファンションを強く前面に押し出し、当番組のパーソナリティー山崎士郎が自慢ののどで彼女らを

その世界に引き込み、かつまたあらゆる情報を提供しているから

です。中でも最近聴取者の間で人

氣があるのが、東京の神戸ホット

・ラインというコーナーです。パ

ーソナリティー山崎士郎と神戸の

可愛い4人のキャスター、兵頭さ

ん、中桐さん、白井さん、福田さ

んらが、電話を使い神戸とスタジ

オを直接結び、国際都市といわれ

ている現在の神戸の素顔を、面白

おかしく、そして当地の言葉をフルに使つてあらゆる角度から報告

してきます。

彼女ら4人は、現在甲南女子大の3年生在席中で、しかも4人と

もに放送部員。われわれスタッフ

は去る5月17日、18日聴取者参加の神戸まつりのツアーリー同行し、

その際、彼女ら4人のキャスターにお会いしました。われわれの番

組イメージから、当初この4人のキャスターが内容を把握して、こ

なないでいるかということが大変

気がかりでした。ところが、われわれの予想していた以上に彼女ら

は熱心に毎週リポート+勉強を積

み重ね、かなり内容の濃いものを送つてきました。最近では、

そんな彼女らに、番組とは関係なくテレフォン・データの申し込みがくるようになり、スタッフも大

あわて。この東京と神戸ホットラインが放送された当初、数は少な

いですがいくつかの投書がありま

した。それは東京および関東エリアの番組がなぜ神戸の紹介をして

いるのか? というような内容のものです。それは、われわれスタッフはこのように考えています。

ラジオはテレビと違い、どこででも聞けるという利点があります。

そしてさきに述べたように、われわれは他の深夜放送とまったく異なり、情報というものを売り物に

しています。旅を一つ取り上げ、それを情報と一体化した時、観光



地の紹介はもちろんのこと、皆の町の紹介もこれに属するわけで。その最初の試みが、この東京と神戸ホット・ラインなのです。われわれスタッフは、この東京と神戸ホット・ラインをお聞きの聴取者の方々が、当番組を一つ参考とし、かつ神戸へ足を向ける際の一つの出発点としてご利用願うことを思い、また、ツアーのようなもののも組む計画をもらながら、送り手の側、そして受け手の側の相互のメリットを深く考え、さらに前進・前進・また前進の息込みで制作を続けてまいります。

トランジット イン

フランクフルト

稻垣よし子（デザイナー）

飛行機で海外旅行された方なら一度や二度体験する、自分ではど

うしようもない空白がある。給油乗務員の交代、あるいはやむを得ない事情で目的地外の空港に立ち寄ることを余儀なくされるあの手持ちふさたな時間がそれである。空港内の限られたスペースでただ時の過ぎゆくのを感じとまつている。自分の意志はどうにもならない、ちっぽけな自分の存在を確かめる、そんな空間をトランジットという。今、私は神戸を遠く離れて、ただ一人フランクフルトにいる。話す言葉も、目に入ってくる文字もわからない私には、表わせない不安と寂しさが交錯している。

しかしここには、ヨーロッパの毛皮という毛皮を一堂に集めて、国際見本市がある。世界の女性を魅了する華麗さと、何としても自分のものにしたい欲望を換起させる不思議な魔力を秘めた毛皮——パリのアビアン、エルメス、ロンドンのシンプソン、デンマークのクリスティンセン、ACバング——etc。

毛皮の魅力が騒がれているのも希少価値もさることながら、永遠のマテリアルというふざわしい気品が、世の女性をと

らえて離さないので。幾多の逸品を手にしながら私の心を打つものはない。人生の大半をオートクチュールに、世界の大男と対等にわたりあつてきただ人のバイヤーとしては、全く情けない限りだが、そこは長年培った商品を見る目と手が、文字どおり頼りになる助手であつたことはいうまでもない。街全体がこの見本市のために湧き返っている。広い会場は五日間の会期中、歩き続けても見尽くせないほどのコレクション。五百点のセクションに分けられ、各々には数百点の作品が肩を並べている。コート、ケープ、ストール、ブルゾン、帽子、いずれもこの日のためにクリエイティブされた作品ばかり。美しいフォルムとみごとなシルエットは、技術の素晴らしさもさることながら、毛皮といふマテリアル自身がもつ優雅、神秘を漂わせている。SAGAミンク、スツカラ、ロシアンセーブルなどの豊かな素材を贅沢に使った作品には、『着る宝石』としかいよいがない。毛皮と高級ブレタボルテを志しての渡欧であったが、創造者の心に触れた今、私自身の長い足跡とわが人生のトランジットを、ふと感じた次第です。

□ ある集いその足あと

日本UFO研究会

平田 留三

（日本UFO研究会会長）



1950年米国オレゴン州マックミン・ビルの農場で、パウル・トレント（農業主）が撮影したUFO。この写真は米国政府がコロラド大学に研究調査させたうちの1枚で、トリック写真でないことが証明された。



1952年、ペルーのマドル・デ・デオスのジャングル上空を飛行する葉巻型UFO。

宇宙のロマンともいえるUFO（未確認飛行物体）に関心をもつたのは、昭和二十九年だったと思うが、某日の朝日新聞に五段抜きで「空飛ぶ円盤は実在する」と、ダウディング英國空軍大将の論説が報道されてからである。

航空機ファンの私は、地球の科学よりはるかに進歩した星があれば、当然そのような性能の飛行物を有するだろうと確信した。当時は文献もきわめて少なく、入手するのに苦労したものであった。ときたま各新聞にUFOの目撃記事が掲載されて貴重な資料となつたが、同好の友が何となく集まつて土曜の午後は時間を忘れてUFO談に熱中して楽しんでいた。大

正後期から昭和一ヶタ生れが大半で、職業も公務員・教員・会社員から医者・僧職と割合いカタイ職業が多數で、そのうちに私たちのグループが新聞などで紹介されると、仲間に入れてくれという人が全国各地より現われ、四十一年に「日本UFO研究会」を発足させた。世界各国の二十数余の研究会とネットワークして、会誌と情報の交換をなし、現在四百人の会員となつた。神戸近辺だけでも数十人は入会しているが、会員全員の年齢層は、恍惚の人からヤングと広く、約百人は女性である。

UFOが世界の注目をあびたのは、一九四七年六月二十四日の朝、快晴の米国ワシントン州レイニア山上空を自家用機で飛んでいた実業家ケネス・アーノルド氏が、九個の円盤型UFOを目撃して以来であるが、実はもつと昔、人類が空を飛ぶ機械をもたらす時代から、UFOは各地で多数の人々に目撃されているのである。その確証は地球の各地に存在している

し、旧約聖書や日本の古典書物にもそれを裏づける記事が多くある。宏大無限の大宇宙の中で、一つの星の集團が銀河系宇宙であり、その片隅に私たちの地球が小さく光っている。世界最大のパロマ天文台の望遠鏡では約四十億の星が見られる由だが、これと銀河系宇宙の一部分であるという。太陽は約十億もあるというから、それをめぐる惑星の数を考えると、地球よりかなりの先進星と開人は入会しているが、会員全員の年齢層は、恍惚の人からヤングと広く、約百人は女性である。

UFOが世界の注目をあびたのは、一九四七年六月二十四日の朝、快晴の米国ワシントン州レイニア山上空を自家用機で飛んでいた実業家ケネス・アーノルド氏が、九個の円盤型UFOを目撃して以来であるが、実はもつと昔、人類が空を飛ぶ機械をもたらす時代から、UFOは各地で多数の人々に目撃されているのである。その確証は地球の各地に存在している

葉巻型UFOと円盤型と大別して二種類だが、いろんな変型のもあつて種類は豊富である。いくつかの星から飛来するだろうからには、地球の航空機や自動車と同様に、それは当然と思つていい。攻撃性の強い宇宙人もあるだろうから油断はできないが、平和愛好主義の宇宙人もいるだろう。地球とてご同様なので、これまた当然とか一日も早く知りたいのは私たちはだけではない筈である。



新しいと
ゆうことは
いつまでも
古くならない
ことです。



店舗づくりのプロフェッショナル

信頼される



(株)神戸日建

神戸市葺合区御幸通3丁目1

PHONE 078(251)3525(代)

NIKKEN MEMORY SERIES<7> バロンさんプラザ店

木とレンガと鉄を素材に英国風喫茶&
レストランをというテーマで神戸日建
さんにお願いしました。

最高の素材と抜群のセンスで、吹き
抜けや2階のデザイン等は小野原社長
さんの得意とするところじゃないですか。

最近は喫茶店やレストランは随分、
色んなお店ができていますが「誰もが
抵抗なく気軽に楽しんでいただけるよ
うに」というねらいが良く生かされて
います。



黒田 社長

神戸派は明るい市民性 が持ち味でしょうか

山と海、それは日本の風景の最も大きな要素である。

古い昔、中国の人々の抱いた蓬萊山のイメージは、遙か
東方の海上に浮ぶ島国日本への憧憬の心にも繋るもので
はなかつただろうか。

唐招提寺御影堂の障壁画の揮毫を受けておられた東山
画伯が第一期として「山雲」「涛声」を完成されました。
唐招提寺障壁画展の会場（神戸大丸）でハイカラ神戸っ
子であった東山画伯に語っていただきました。



東山魁夷画伯

私は横浜生れですが、三つの時に神戸に来て、それから入江小学校、神戸二中と神戸で育つたんです。

神戸に来て一週間たないうちに迷子になつた。まず三宮に一家がおちついたんですが家の前を通つたチンドン屋に着いて行つてしまつたんですよ。引越しなんかの時、酒屋さんの店員が来るでしょ。その人が「穴門の交番で迷子になつてゐる子供が、おたくの子供さんらしい」と母に知らせてくれたんですねが、母は知らないもんだから「いえ、うちの子は外で遊んでますよ」といつて外へ出たら、いないのでピックリして走つて来ました。それまでは巡查と話しながらしてたのに母の顔を見たとたんにワッときだしたそうです。お守り袋に住所と名前を書いたものを入れたんですけどまだ横浜のものだったんで「こんな小さな子が横浜から迷子になつて来た」と巡查も驚いたそうです。それが神戸での第一歩ですね。

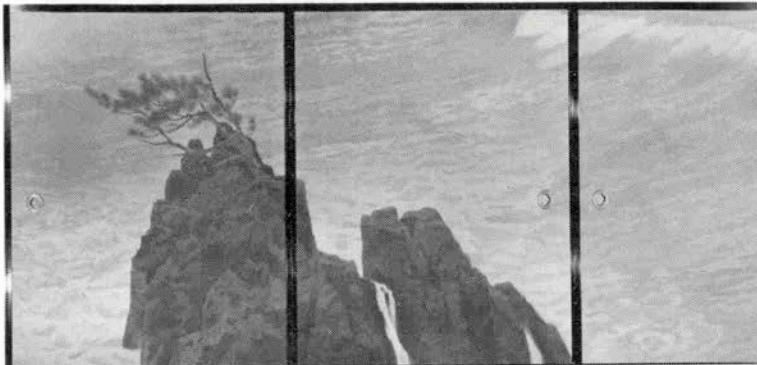
神戸ってところは同窓会が好きなところでないでしょうか。中学の50周年が舞子ビラであり、そのあくる日みんなで唐招提寺へ行きました。ちょうど障壁画の公開の日で長老が大変喜こばれて皆さんを接待くださいました。先生がまだお二人お元気でした。幼稚園の同窓会も、この前、ドイツの古都の展覧会をやつた時に開かれたんだけど。私は大変に神経質な子でまず幼稚園に行つて集団生活なんてとうていできない性質の子供だったんですね。保母さんが大変綺麗な人でその人にほめられるのがうれしいもんでお遊びや絵なんか描いたりして自然になじんでいたんですね。その人が80いくつなんですかもう同窓会の間じゅう泣き通し、ハンカチを目についてどおし。なんか人なつかしくなる街といいますか、住みいい街ですね、神戸は。

神戸という所は、海と山に恵まれたところ。日本の自然というものが自然に感じられる町なんですね。私が美術を志すのに大きな影響を与えてくれました。神戸の気質は市民的健康性というか明るさがある。先天的に私の場合は反対のものを持っているから、いつもそれがバランスをとる役目をしてくれる。立脚点があつて、もうひとつの方へ自分が落ちこんでいくのを救つてくれる。芸術にもいろいろあります。市民性から離れた立場というのもあるわけですが、そこから離れ暴走していくことは疑問ですね。奈良の古い寺の襖絵、床の間の絵が今の人にはアピールするものがあるのか？と思ひますが、しかしある人が大勢見に来ている。私の中に明るい市民性を好むという性質があるから、それは神戸という街でしか

へ入りなさい。そのためには、中学へ入る勉強をしなさい」と言われ、中学に入つたらなんとなく絵描きになるのがいやになつた。たしか二年の時くらいに希望という題の作文を書かされたので、私は「綺麗な水が軒下に流れている小さい町で本屋さんになり、綺麗なお嫁さんをもらつて、母たちを大切にして暮らしたい」と書いたら消極的すぎると叱られました。今と違ひ軍事教練の盛んな時代でしたから、中学生らしくもっと大きな希望を持てとね。

国語の先生に「絵描きになるのか」と聞かれ、「いや、ならない」「なぜ、ならないのか」「母が悲しむだろうから」「ふーん」それっきり先生は話を進めなかつたんですが、ある日、国文法のプリントが配られ脇に妙なことが書いてある。どうやら落書きを消し忘れたらしいんだが「絵にこころざさんとする子あり 母ありとてたじろぐ 神戸のこの前途はやすらかなるかな わがことのためにくらす」私は自分のことではないかと思ひ直接言われるよりも心に響いたけど、それでも絵描きになるんじゃないと思つてた。そのうちまたなりたくなつて、結局なつてしまつたんですけどね。

も最も下町的な所で育つたことがあるから、隣のおばさんが美大4年の時に帝選に初入選したら家へ飛び込んで来て「ボンは偉い」といつて両親の前で泣きだした、そういう氣質が染み込んでいるからでしょう。芸術というものを非人間的に捉えることは反感をもっています。小磯良平さんにもそれがいえますね。神戸の特質ではないだろうか。故坂本勝県立近代美術館長が「神戸派」ということばを使ってましたね。芸術には尊厳性は絶対に無視するものではないんですね。しかし芸術家である前の人間であるということの方が大事だと思う。そこの違いでしょうね。それですか



唐招提寺御影堂寛殿の間「満声」部分

ら芸術至上主義から見れば生ぬるい仕事をしていると思われるかもしれません。市民的健康性からもはずれているかもしません。そこに私の立場があるんであります。

魁夷といふ号は美術学校を出た時につけたんです。本名は新吉という大変庶民的な名があるんですが、やさしい環境を愛する中で育

つきたけど芸術の世界ではやさしさだけではいけない、しっかりとやさしいことの反対の厳しさが必要だと思います。東山十魁夷。平衡感覚でしょうか。ですから学校を出て留学先をドイツに選んだのも魁夷という号に関係あるでしょうね。いつでも神戸が心にあってそこで神戸的でない激しさ厳しいものに対するバランスがとれた。「ドイツへ行く」といつたら皆が止めましたね。私とは反対のものを持つているから行きたかった。神戸に住んでたおかげで船に乗れば気楽に外国へ行けるという感覚がありましたね。

日本人の心を考えてみますに、まず京都、それから奈良大和とだんだんさかのぼっていく。日本人的、今日われわれの心のもつてゐる根源的な所ですね、大和は。それからみると外に一つの故郷を持つ日本の成り立ちも見えてくる。たとえば唐招提寺、あの寺が出来た時は大変エキゾチックな寺だった。外国の様式でそつくりそのまま建立されたものだから。異質なものを受け入れてそれに興味をもつて取り入れる。それでも日本といつものが多くならない。島国だから溜るのか、外に素通りしないんですね。日本的に純化していく。それがわれわれ民族の歴史と自然なんでしょうね。神戸というところは外国人との関係も深く、また源平の遺跡などが多いように日本的な関係も深い所。山の手のハイカラさやそれでいて外国人がぶれしない面、二つの性格は日本人型を上手にもらっている。私の場合も西洋文化に対する興味、日本文化に対する執着の二つある。考えてみると二つあることが日本人なんですね。両極がありそれでなお日本的なものを失なわない、面白いですね。神戸で育つてドイツで学び、日本画家としての存在をもつてゐる私も不思議な気がしますけど、自然な気もします。日本人のありかたなのではないでしょうか？ 唐招提寺は今では最も日本のお寺ですものね。もし私が遠くの山の中で育つてたらそれほどピンと自分にこないと思います。東西の文化の

上段の間「山雲」部分



接点のようなこの神戸は私なりの日本人感、日本の美を考へる上で大きな役目を果してくれていますね。

昔はいい音

楽家がよく神戸で演奏しましたね。ジンバリストやアンナパブロワ。私たちの年代は似ているかもしれませんね。モダンではなくハイカラなんですね。連続大活劇を見たあと、家に帰つて皆で役を分けて演るんですね。兄なんかいい役やるんですが、私は家の中で見てるだけ。傑作なのは、珍しく父が映画につれてってくれた。もちろん新聞地です。「乃木大将の少年時代」という映画だったのですが、隣の映画館では連続大活劇をやついていた私はそっちの方が見たかった。中で座布団に座つて見ると隣の上半分くらいが窓から見える。だんだん窓の方に寄つて行つて見ただけで上半分だけだからよくわからなかつた。父は、と見るトイネムリしている(笑)一度淀川長治さんとお話をされたんですね。

唐招提寺の障壁画についても、新宮殿の壁画についても、大きい仕事は依頼されないとできない。依頼をうけて受けたか否かを自分で決めるのだが、いつでも自分が選択し

ていく意志的立場はそこだけです。一方は近代的な現代の宮殿、一方は歴史をもつ古寺。二つの場合は性格が違うのです。もしこれがあいついで短い期間に両方の依頼があつたんだつたらお断りしていると思います。ちょうど京都を主題にした連作を、と思っていた時に新宮殿のお話がありました。大和を描こうと思つてた時に唐招提寺のお話。その間に七年の歳月が流れているんです。

自分の心境が自然に変わる。求めている方向が、京都一新宮殿 大和—唐招提寺と象徴的意味で一致したんですね。自分で意志して起つたことではないんです。風景でもこんないい風景見たいと思っても見れないものであります。でも行き会えるといふこともある。出会いを大切にすることしかできないですね。日本の過去の伝統だけでは芸術は生まれません。民族的なものから離れるのも断絶を生むだけですね。両方の求めている接点の上で自然に、意志的に考えているとつかめなくなる、自然に自分が歩いていくんです。それがその道のひらけていく方法だと思います。自然に反対の方向へ行く場合もあるけどね。自分を大切にしますけれども我というものから離れないといふのが見えませんものね。

時間が過ぎ去つて行くのでは無く、私達が過ぎ去つて行くのである。時は永劫に不变不動であり私達を含めて、この世の全てのものが変化して流動していく。永久に変わらぬものは死であり、移ろい変わるものこそ生であるとは、日頃の私の感懷である。しかし、いまの場合、なんと日々は早く過ぎ去つていくことが……。障壁画を制作なさっている時に書かれた「唐招提寺への道」の中の一節である。三年半をかけて完成されたこれらの障壁画は、第一期としてあり、ある期間を置いて厨子の内扉や他の部屋の襖、杉戸なども揮毫なさるという。

「描くことは祈ることである。」それが東山画伯の日常の心構えであるそうだが、この唐招提寺の仕事の場合一層、敬虔な気持ちで筆をとられたそうです。